

国内需給、今月も引き締まるか

橋本金属 アルミ橋本健一郎氏リポート②

アルミ輸出 新地金産頭に大幅増 輸入も軒並みニケタ増

■概況

七月前半はイラクやウクライナ情勢などの懸念材料や、六月の中国貿易黒字は三一六億ドル、事前予想の三五〇億ドルを下回り、中国の物価が予想を下回ったなどマイナス材料もあったが、中国政府発表の五月の中国製造業PMIは五一に上昇したこと、FRBが午後連邦公開市場委員会(FOMC)、六月十七(十八日開催)の議事要旨を公表、FRBが利上げを急がず、米国の低金利政策は当面続くこと受け止められたことを好感しLMEアルミ相場は上昇。

一、八〇五ドル(現物後場買値)と、前月最価格から一五ドル下げての前半締めとなった。

後半はウクライナ東部でマレーシア機が墜落したことや、イスラエル軍によるパレスチナ自治区「ガザ」への地上侵攻をきっかけに地政学リスクの高まったこと、六月の米飯契約住宅販売指数が市場予想に反して低下したことなどマイナス材料もあったが、七月のユーロ圏総合PMI速報値は五四・四に上昇、予想の五二・八を上回ったこと、六月の欧州自動車販売は前年比四・三%増の一三万台、一〇カ月連続の増だったこと、欧州のアルミ新地金プレミアムが四五五ドルと史上最高値に上昇し、BOA(バンクオブアメリカ)が今年の世界アルミ需給を一三・六万トンの供給不足、来年は五〇・四万トンまで不足幅が拡大するとの予想からテクニカル買いが入り上昇。

八月四日現在LME(現物後場)一、九七七ドルと、前半締めから四五ドル上昇してのスタートとなった。

■前月の経済指標

●月間のドル/円レート(TTS)
一〇二・二八→一〇三・七四(円)

●自動車生産台数

日本自動車工業会によると、自動車生産台数は前年比六・六%増の八五万七、三一七台。

●自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除く)は前年比〇・六%増の二八万五、八八六台。

●新設住宅着工戸数

国土交通省統計によると、新設住宅着工戸数は前年比九・五%減の七万五、七五七戸。

●貿易関連指標

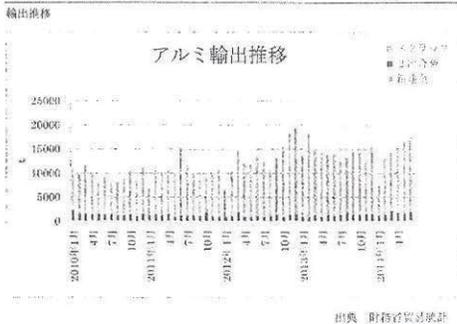
財務省貿易統計によれば、輸出はアルミ新

地金が前年比九六六%増の三一八t、二次合金が五七・四%増の一、五八九t、スクラップが一九%増の一万五、五六七t。

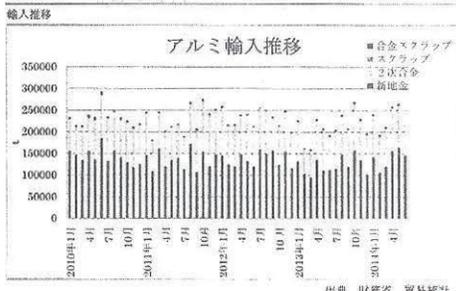
輸入は新地金が前年比二八・九%増の一四万五、三七二t、二次合金が一六・二%増の八万九、七四九t、スクラップが八五・四%増の九〇六t、合金スクラップは四〇・六%増の四、六〇一t。

■前月の国内指標

	4月	5月	6月
輸出	232 t	148 t	318 t
前年比	+236.0%	+15.1%	+966.0%
二次合金	1431 t	1388 t	1588 t
前年比	+78.6%	+33.8%	+57.4%
スクラップ	13710 t	10005 t	1万5667 t
前年比	+0.4%	+17.4%	+19.0%



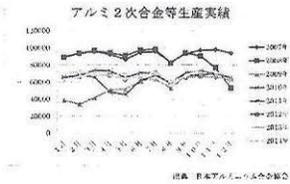
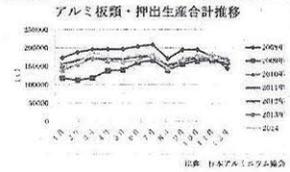
	3月	4月	5月
輸入			
新地金	15万5907 t	16万3414 t	14万5372 t
前年比	+16.6%	+46.7%	+28.9%
二次合金	9万8806 t	9万6668 t	8万9749 t
前年比	+8.3%	+3.2%	+16.2%
スクラップ	794 t	1087 t	906 t
前年比	-3.2%	+51.8%	+85.4%
合金スクラップ	3733 t	4780 t	4601 t
前年比	-1.9%	+34.9%	+40.6%



日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比七・四%増の一七万八、八七六t。

日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績は、前年比〇・二%増の七万〇、六〇二tであつた。(六面へ続く)

(四面より続く)



■見通し

今月はロシア・ウクライナ情勢の行方及び中国の景気対応に一喜一憂した月となった。

自動車生産は、八万五千七、三二七台で、前年同月の八〇万四、二五五台に比べて五万三、一九二台・六・六%の増加となり、一〇カ月連続で前年同月を上回った。

うち、乗用車七二万七、六〇六台で四万七、八九五台・七・〇%の増加となり、一〇カ月連続のプラス。トラック一七万七、五二二台で四、六三二台・四・一%の増加となり、一二カ月連続のプラス。バス一万二、一九九台で六六七台・五・八%の増加となり、三カ月ぶりにプラス輸出は前年同月比四・〇%の減少。(実績)

六月の国内自動車販売台数(軽貨物除く)は、一八万五、八八六台で前年比〇・六%増となり、四月よりプラスうち、乗用車〇・三%増、貨物二%増、バス一四・一%増。六月の住宅着工戸数は、七万五、七五七戸(前年同月比九・五%減、季節調整済年率換算値で八八・三万戸(前月比一・三%増、前年同月比は四月月連続マイナス、このころ、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動もあって、実数では前年同月比で減少している。一方、季節調整値では、前月より若干の増となった。

分譲マンションの着工については、建築費の上昇や人手不足等の影響により、契約・着工が先送りされているとの事業者の見方がある。このような状況や、持家における受注の減少が、今後着工の減少にどの程度の影響を与えるのか等について、引き続きその動向をしっかりと注視していく必要がある。

日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績は、前年比〇・二%増の七万〇、六〇二丁であった。

アルミ圧延・押出品生産数は七・四%増の一七万八、八七六丁と、一〇カ月連続プラス。

①缶材三万七、五七二丁(六・三%増) ボトル缶(主にビール缶)の増加により、前月のマイナスからプラスに転ず(六月のビール系飲料の出荷量は前年同月比六・五%減)。

②自動車一万一、九二八丁(三・五%増) 輸出向け自動車材の増加等により、一〇カ月連続でプラス(六月の新車販売台数四万五千丁、前年同月比〇・四%増)。

③輸出一万八、三九八丁(三・三%増) 海外工場を立ち上げる庄延メーカーの素素輸出の増加等により、三カ月連続プラス。

押出しに関して
①建設四万二、六六八丁(〇・三%増) サッシ・ドアは微減となるも、カーポート向け需要の増加等で外装材が伸びたことにより、プラスに転ず。

②自動車一万一、三九六丁(三・四%増) 輸出向け自動車材の増加およびトラックの好調等により、一〇カ月連続プラス。

アルミ輸出は新地金が前年比九六六%増の三二八丁、二次合金が五七・四%増の一、五八九丁、スクラップが一・九%増の二万五、五六七丁。

LME価格は二、〇〇〇ドル近辺まで上昇したと背景に輸出増の見解。

輸入は新地金が前年比二八・九%増の一四万五、三七二丁、二次合金は一六・二%増の八万九、七四九丁、スクラップは八五・四%増の九〇六丁、合金スクラップは四〇・八%増の四、六〇一丁。

前月に続き消費増税前の駆け込み需要の反動も少なく自動車関係を中心に好調な内需及び住宅着工も堅調であることから輸入増

アルミ供給に関して

住宅関連は新設住宅着工数が前年比九・五%減、持家一九%減、貸家一・八%増、分譲住宅一一・九%減、分譲マンション二四・五%減と、貸家を除き大幅減。消費増税前の駆け込み需要も終了。四月月連続減。消費増税後も七月の国内販売台数が前年比〇・六%増、また七月の国内販売台数が前年比〇・六%増と四月月ぶりの微増、販売が微増ではあるが四月月ぶりの増加、また生産は堅調のため来月以降に注目。

消費増税前の駆け込み需要の反動から二本柱の住宅が減少傾向にあった。ただ自動車は販売生産共に戻している。共にどの水準で落ち着くか注視したい。

スクラップは、為替が前月が変わらずの一〇二・一〇三円(TTM) 近辺だが、LMEが二、〇〇〇ドル超えまで上昇したと、夏季休業以降も堅調な需要が考えられることや夏季休業以降の発生減からの先買いから今月も需給は引き締まるのではないかと。

アルミ価格に関して

今月は、中国の景気対策及びロシア・ウクライナ情勢に左右される。

中国の景気対策に関しては、一部に限って行っていた住宅購入制限の撤廃の範囲を広げるなど住宅問題に手を付けている事や、銀行への融資規制を緩めるなどを行っており、またその効果が指標として表れ始めていることを考えれば、今月は後退するとはならない。

ロシア・ウクライナ情勢に関しては米欧が対ロシア制裁を強めているものの、欧州としてはガス供給問題もはらんでおり、制裁が一方的に進むとは考えにくい。

それらを踏まえた八月のアルミ価格は、中国の景気回復がさらに進み、ロシア・ウクライナ情勢が少なくとも現状から悪化の無い場合、七月高値のもう一段高の二二・一〇〇ドルを予測し、いずれの場合も一、九五〇ドル。

下値はいずれの条件も達成できなかつた場合も二、一八五ドル。

為替は先日のFOMC議会議況でFRBが利上げを急がず、米国の低金利政策は当面続くと受け止められたことから、当分は一〇二・一〇三円の水準が続くもの、ポルトガル債務懸念やユーロ情勢などの地政学リスクに左右されるのでは？

ユーロ情勢もポルトガル債務懸念が悪化した場合は、欧州経済へ影を落とすと判断の円・ドル高から、上値は七月高値の一〇二円台。下値は変化なければ、一〇四円まで円安進むとの予測。

メーカースクランプ購入価格は五・一〇円高と予測している。